

三重大学教育学部教授
永田成文 先生



【社会科という教科や地理歴史科の科目として、市民的資質の育成を担う地理】

「まずは、先生の現在の研究の紹介をお願いします。」

地理教育において、社会をよりよくするためにどうすればいいのかという市民性の育成、市民的資質の育成を研究しています。具体的には、現在世界的に持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）を推進するという流れがあり、地理教育における持続可能な社会を形成する学習の導入が要請されています。地理学習を通して、学習者が持続可能な社会を形成するための行動の変革を促すことが求められています。そのために、様々な地域レベル（身近な地域、県、国、世界）の課題について、どのように解決していくかを考えるなど、行動の変革を促すための地理教育のあり方を考えています。

【新しい地理教育について】

「図書の紹介」

私は、教育の現場にいたこともあり、私が現場にいた頃、地理教育は地名物産の地理といわれていて、どのような地域でどんなものが生産されているのか、どのような人が住んでいるのか、どのような自然環境があるのか、ということを覚えることが中心でした。そのような中で、現代社会の諸課題を取り上げること

【授業に参加し、自分で考えてもらう工夫】

「平成元年度の学習指導要領での教育に切り替わるとき、先生は現場にいらしゃいました。第二の地理教育導入という変化にも柔軟に対応された姿が、この図書から伺えます。」

地理は人間理解が重要だと思っていたので、例えば旅行というアイデアを取り入れて、行ったつもりになって体験を書くというところで、ワーキングホリデー制度で旅行の計画を考えてみる授業を行いました。疑似体験すること、人は人と人の触れ合いをイメージすること、そこから何か小さな摩擦が生ずる。その摩擦にどう感じたか、どう対応していけばいいのかを考えると、何かを提案する活動がよりよい社会を形成することに結びつくんだなと思いました。

また、2001年にJICA（国際協力機構）の派遣でマラウイに行き、貧困の実態の様子を見る機会がありました。このことが地理的課題の一つである世界の貧困について考えるきっかけになりました。そしてJICAで開発教育が推進されている、参加型学習というものが取り入れられていました。先生が言ったことや黒板に書いたことをメモするのではなく、まさしく自分で考えたことを発表するなど参加していく学習方法です。一般的な授業では、教師の発問に対して知識が求められることが多く、一部の活発な子だけが発言することもあるかもしれませんが、みんなが参加し発表できる手法として、なんでも思ったことを述べてよいブレインストーミングが推進されています。また、フォトランゲージの手法があります。写真を提示して、そこから何が読み取れるかを話し合っただけでなく、授業に参加してほしい。授業中ポイントと話を聞いているだけでなく、考えて欲しいというのがありますので、その面での工夫を第一に考えました。

【他者の意見にふれ、行動の変革に結びつける工夫】

「グループ単位でのディスカッションも先生の授業の計画に含まれていました。異文化理解とかになると、自分とは異なる価値観を持つ人との話し合いが効果あると考えられます。グループ学習のメリットは？」

学習が進み高等学校になれば、より客観的に考えていくようになります。客観的に考えていくのであれば、他者の意見や実際の資料やデータが必要となります。グループ学習の結果としては、グループの中で考えを一つにまとめるというものもあり、グループの中で出たいろんな意見（異なる価値観）を認識するというものがあります。重要なのは、その結果に対して、どのような対応ができるかです。多面的多角的な視

『市民性を育成する地理授業の開発：「社会的論争問題学習」を視点として』



〈風間書房、2013.2〉
【所在】図・展示棚
【請求記号】375.39/N23



が、平成元年度の学習指導要領で示されました。その中に異文化理解と地球的課題の内容があります。異文化理解は宗教などの対立による文化摩擦問題が含まれます。地球的課題の中には、地球温暖化や環境破壊問題、経済格差問題などがあります。そういった問題について、児童生徒が現状や原因をつかむばかりでなく、解決策を考えていくことが必要なのではないかと思われました。よりよい社会に向けて自分の考えを発表し、授業に参加していく手法を社会参加学習と言います。現代社会の諸課題をテーマ的に取り上げる学習、第二の地理教育と位置付けられます（第一は地誌的学習、第二は系統的地理的学習）。社会参加学習を地理教育の中でやっていけば、児童生徒の行動の変革を促すことにつながると考えたのです。もともと生徒の興味をわくような授業をどうやって作るのかという思いからはじまったのですが、そうしたら児童生徒に考えさせる教育が必要なのではないかと思に至りました。地理教育は、もともと地理科として単独の教科でした。戦後社会科の中に位置づけられました。社会科の中に位置づけられたということは、社会科の究極目標である市民的資質の育成を考えていかなければいけません。そして最後はよりよい社会を形成していく、そこに繋がらなければいけないと思っています。自分が実践し、研究してきた授業を何とか一本の線で繋げることができないかを考え、市民性を育成する授業として、社会的論争問題学習という授業理論を考え、それに対応した授業実践を開発しました。

【学生に応じて毎年工夫が必要】

「新しい教育に対して、乗っかってこない学生もいると思うのですが、どのように対応されていますか？」

大学教員が行うのは教育と研究です。大学では社会科教育の中の地理学習をどのように進めていくかという教科教育法を主に担当しています。地理教育の研究の成果を授業に取り入れています。私は三重大に来て12年目になります。1年目の時は勢いで熱意だけで授業をやりましたが、学生からよい評価をもらいませんでした。どんなやり方を変えてみて、授業は良くなっていくのか、自分のスキルが上がっているから大丈夫ではなく、やっぱり学生の様子を見る必要があります。今までのやり方で乗ってきたけれども、通用しない部分がある。だったらその部分をかみ砕いていけばよい。学生の変化、集団の特性に応じて毎年工夫をしなければいけないのだなと思います。

【何か残せるものを作る】

「三重大学の学生に対する印象、メッセージ」

三重大学の学生はとても素直で授業や研究指導がしやすいです。学生の皆さんには三重大学の4年間で、何か残してほしいです。その残せるものの一つが卒業研究です。ゼミでディスカッションをして、仲間同士で高め合って、その完成度も大切ですが、自分のオリジナリティを持ったものが何か一つでも提案できるように、頑張してほしいと思います。

永田先生プロフィール

三重大学教育学部教授。大学院修了後、小学校や中学校、高等学校の教諭として教育現場に携わる。2004年に三重大学の教員となり、教育現場における授業実践をもとに市民性を育成する地理授業をテーマとして、カリキュラムや授業構成について研究している。現在は、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を導入した地理授業を中心に検討している。

READING LIST

ここから広げよう!!各学部の先生からのオススメ本

人文学部 深田淳太郎 先生

早川真悠 著
『ハイパーインフレの人類学：ジンバブエ「危機」下の多面的貨幣経済』
人文書院、2015年2月出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】337.9481/H46

2007-09年、ジンバブエは未曾有のハイパーインフレを経験した。2008年7月のインフレ率は2億%を超え、行列に並んでいる間に商品の値段が2倍に上がり、公務員の給料はバスに一回乗って終わる。本書は当時のジンバブエで一生懸命として暮らしていた著者が、この困難・混沌の渦中で人々がどのように生きていたのかを、周囲の人々の日常的なやり取りを通して鮮やかに描き出す。

教育学部 松本昭彦 先生

倉本一宏 著
『平安朝皇位継承の闇』
KADOKAWA、2014年12月出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】210.36/Ka53

説話集や歴史物語には狂気の天皇の話が多い。平城天皇・陽成天皇・冷泉天皇・花山天皇といった天皇たちである。それぞれ、狂暴・好色・奇行などの説話が残る。しかしこれらの天皇の時代は皆、皇位継承にからむ権力闘争の時期であり、その敗者の側の天皇たちである。このころは、皇位を勝ち取った側のリークした情報をもとに説話ができあがった可能性を示唆する。その政治的背景の深読みが面白い。

医学部 江藤由美 先生

ジョセフ・ジャウォースキー 著
野津智子 訳
『シンクロシティ：未来をつくるリーダーシップ増補改訂版』
英治出版、2013年2月出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】159/J29

物語は、作者がウォーターゲート事件に直面したことで、真のリーダーとは何かを求めて旅に出、さまざまな方と出会い、アメリカン・リーダーシップ・フォーラムをつくるまでの話である。偶然に思える出来事があなたの身に次々起こった…。人生の岐路に立ち決断が必要な時、いかに生きるべきか悩む時、特に若い方々に参考になる本としてお薦めの1冊です。

工学部 成瀬央 先生

江口弘文 著
『初めて学ぶPID制御の基礎』
東京電機大学出版局、2006年7月出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】501.9/E33

利便性を高めるために、自動車や電気製品など私たちの生活を支える物品にはさまざまなセンサーが取り付けられており、その出力に基づいて適切に制御されている。本書はこのような制御工学について、古典制御理論から現代制御理論までの基礎的内容がわかりやすい例題とともに解説されている入門書である。自習用の教科書としてもお勧めできる。

生物資源学部 松井隆宏 先生

山本茂実 著
『あゝ野麦峠：ある製糸女工哀史.新版』
朝日新聞社、1972年12月出版
現在、品切れ再販未定品
【所在】図・書庫
【請求記号】366.35/Y31

昨年6月に群馬の富岡製糸場が世界遺産登録されたことは記憶に新しいが、本書は、糸糸の最大の産地であった信濃（長野）を舞台にしたノンフィクション文学である。現在の私たちの生活が過去の農村のどういった暮らしの上に立つのかを教えてくださいだけでなく、貧しさとは何であるのかについて改めて考えさせてくれる一冊である。昨今の社会問題に通ずるところもあり、一読をお勧めしたい。

教養教育機構 下村智子 先生

二宮皓 編著
『世界の学校：教育制度から日常の学校風景まで.新版』
学事出版、2014年1月出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】372/N76

本書は、世界22カ国の学校の日常風景を描き出すとともに、各国の教育制度や近年の教育改革の動向についてまとめられた本である。学校での日々の営みには、その国の歴史、思想、文化や社会的背景が反映されている。本書を通して、世界各国の学校を楽しみながら「旅」すると同時に、私たちが過ごしてきた学校における「常識」に目を向けてみて欲しい。